第204回aacaフォーラム
街とアートが織りなす出会いの場（その3）

開催日：2024年3月26日
話し手：高須賀活良さん
会場：サンゲツ品川ショールーム

フォーラム委員会

2023年度のaacaフォーラムは「街とアートが織りなす出会いの場」をテーマに3回実施。最終回となる第204回は2024年3月26日に品川のサンゲツショールームで開催しました。

講師としてお迎えしたのは、「モノづくりの始まりは『土』から」との考えのもと、テキスタイルデザインをベースとしつつ、境界を飛び越え多方面で活躍されている高須賀活良さんです。「領域をとかす：テキスタイルから考えるアートデザインまちづくり」というサブタイトルで多岐にわたる活動の遍歴をご紹介いただきました。多様性が求められる現代においては、既成の枠組みにとらわれない自由な躍動が時には求められます。高須賀さんはまさに、アーティスト、テキスタイルデザイナー、野良研究者、ハタオリマチのハタ印総合ディレクター、日本遺産プロデューサーなど様々な肩書きで躍動されています。展示し固定化されたアートよりも「今を生きる人間」を大切にする姿勢が根幹にあり、人と人を紡ぎ、歴史と場所を結び、領域を「こわす」というよりは「とかす」ことで次々と活動領域を拡張することになったそうです。

古くから織物の名産地として知られる富士吉田市での「ハタオリマチ」の活動紹介では、高須賀さんの熱い想いや行動が周りを巻き込み、いつの間にか人々の「自分ごと化」マインドを喚起・醸成し、一緒になって地域の活性化を楽しむ仲間たちを作り出す様子が語られました。

取り組みの一つ「ハタオリ学」。これは、地元の歴史を紐解き、土から素材を作り出すように、忘れられていた土地に眠る遺伝子を再発見し、「自分たちが自分たちの言葉で自分たちを語る」ための視点を整理するものです。

「テキスタイル基礎知識」に始まり「ハタオリ歴史学」「ハタオリ地理学」「ハタオリ民俗学」「ハタオリ音楽・文学」「ハタオリ人類学」「ハタオリ機械工学」「ハタオリ染色化学」「ハタオリ経済学」などで構成される諸章は、様々なレイヤーでの世界との関りが自分たちを位置付けているという気付きをもたらします。例えば「中国文明は絹、インダス文明は綿、メソポタミア文明は毛、エジプト文明は麻」というように、繊維と文明を結び付けて明確に分析。そのグローバルでクリアな視点で自分たちの地域に至るシルクロードという物語を紡ぎ出す考察が、自分たちと世界の関係を再認識させてくれるのです。

動画に登場した、自分たちの「仕事」と「まち」を誇りを持って語るハタオリノマチの人々のはつらつとした姿は、高須賀さんという一個人の領域を超え、溶かし、地域が一体となった活気を感じさせ、わたしたちも参加したくなるような作用をもたらしました。わたしたちの固定概念を「とかす」契機を参加者のみなさんに強く印象付けたようです。

「自分にとって テキスタイルとは 領域と領域をつなぐメディウム（溶剤）みたいなもの」と語る高須賀さんですが、高須賀さんご自身が世界をつなぐメディウムのような存在のように感じられました。

講演終了後は小一時間ほど懇親の場を用意。口元の潤滑剤の効果で、参加者間の自由な意見交換歓談が楽しく行われ、参加者から「高須賀さん引率でハタオリノマチを是非視察したい！」と熱い要望が寄せられました。

（委員長 萩尾昌則）

※参考：https://hatajirushi.jp

※ハタオリマチの取り組みは、地域の活性化に向けたアートプロジェクトの手引きとして経済産業省が作成した「×ART（かけるアート）スタートアップガイドライン」にも一部紹介されています。